

特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会
第24回 通常総会議事録

1 日 時 2024年6月8日（土）12時45分～14時30分
（12時30分～12時45分 事前機能確認）

2 場 所 東京グランドホテル3F 蘭の間
（Zoomを利用したインターネット配信）

3 審議事項

- (1) 第1号議案 2023年度活動報告、及び決算報告の件
- (2) 第2号議案 2024年度活動計画案、及び予算案の件

4 確認事項

進行役 浅田剛理事が開会を宣言

議決権を有する正会員総数は181名、本通常総会では

- 正会員出席者数：28名（会場16名、総会開始時Web参加者12名、運営理事を含まない）
- 議決権事前行使者数：53名
- 議決権委任者数：30名（議長へ委任）

以上より、計111名の出席者を確保。従って定款第27条に基づく正会員総数の3分の1の定足数（61名）を満たしていることを確認した。

- 定款第28条により議案の可決に必要な数は、第1号～第2号議案は正会員出席者数と議決権行使者数の合計の過半数である。（決議の票数については各議案で説明）
- 定款第26条により、議長は会長 西久保東功 がこれに当たる。
- 定款第30条により、書記が指名され、理事 村田孝一がこれに当たる。
- 定款第30条により、議事録署名人が指名され、理事 浅田剛、稲葉光亮がこれに当たる。

各任命について特に異論はなし。

議事に先立ち、本日の総会にZoom参加されているNSPE会長Bill Atkinson氏からメッセージをいただいた。

5 議事の経過の概要及び議決の結果

- (1) 第1号議案 2023年度活動報告、及び決算報告の件

西久保会長より2023年度の活動状況について説明があった。

活動方針「将来を見据えた会員価値の極大化」を掲げ、以下の活動を実施した。

- ① 会員主体の活動増加
- ② PEライセンス自体に対する発信強化
- ③ JSPEの会員価値の向上

2023年度活動成果

- CPDセミナー & エンジニアサロン & 英語学習セミナー & 見学会 計17回
累計参加者470名 供給PDH996.5Hr（2021年比+185.5hr）
- NSPECON2023に参加

- Engineer 20 Summit にオンライン参加
- オンサイト見学会を2回実施

2023年度アクションプランの評価

- ① 社会への影響度（会員数）の増加
→2022年度末と比較し、会員数は減っているが、供給CPDは増えた。
- ② JSPEの認知度の向上
→非会員のセミナー受講者が増えておらず、未達。
- ③ セミナー利便性の最大化
→見学会の機会を設け、達成。
- ④ 継続教育機会の拡大
→前年度に比べて供給CPDは増えており、達成。
- ⑤ NSPE等海外エンジニア団体との関係強化
→NSPECON, E20サミットに参加し、関係は継続。
- ⑥ 会員ニーズ、JSPEの価値の再定義
→具体的なアクション、成果物はなく、未達。
- ⑦ 会員活動の活性化
→会員にアレンジしてもらい、見学会を実施し、達成。
- ⑧ 運営リソースの転換：内向きから外向きへ
→セミナー運営の外部委託を行い、達成。

表彰会員3名の紹介があった。イベントに積極的に参加されたことが表彰の理由。

山口 雅弘氏、大場 彰氏、寺岡 駿輔氏

会計部会 浅田理事から2023年度の決算報告及び会計報告について説明があった。

- 活動計画書
- 決算報告書
- 計算書類の注記
- 財産目録（3つの口座、三菱 UFJ、郵貯、Paypal）
- 予実比較
- 貸借対照表

土屋監事より、2023年度の事業報告に関して、理事の執行状況及び法人の財産状況について泉山監事とともに監査を実施した結果、法人の活動計算書、貸借対照表、財産目録並びに比較貸借対照表は適正であると認めたとの報告があった。

第1号議案に対する質疑応答

質問(1)-1（関口晃一PE会員）

2023年度活動方針のひとつがPEライセンスの発信強化とのことだが、誰に何を発信したのか？

回答(1)-1（西久保会長）

対象は、潜在的エンジニア、潜在的PEである。発信手段としてSNSがあったが、あまり効果的でないことがわかり、ツールは今後検討が必要である。また、PEの価値について説明した本が少なくとも過去10年は発行されていないので、アップデート版を検討中である。合わせて現在HPを改訂中で、会員が議論できる場、その結果を示す場を設けることを

検討中である。

コメント(1)-1 (関口晃一PE会員)

JPECも同じ悩みを抱えている。学生や企業などの潜在的なエンジニアに対して、JSPEと一緒に発信をしていきたい。潜在的なエンジニアは、学生は国内で勤務していて海外を目指している若いエンジニアだと思うが、そこへ働きかけることが有効だろう。

質問(1)-2 (川村PE会員)

最初に提案であるが、JABEEに聞いたところ、技術士登録者数は増えているとのことである。全体的に内向きの傾向にあるのではないか。JABEEと連携して、技術士にくっつける形でPEをPRすることも一案ではないか。

次に質問であるが、今年度は赤字決算、来年度も340万円の赤字予算で、このままだと数年後には資産がなくなる。例えば業務委託費の40万円の内訳だが、外部委託をしているクリーブネクスト社にはどの位支払っているのか？

赤字が続くとJSPEが持続できなくなると思うので、会費の値上げについても検討いただきたい。

回答(1)-2 (稲葉理事)

同社にはセミナーの運営をお願いしており、具体的には会員へのメールやCPD証発行等の実務をやっている、1回のセミナーで2万円、年6~8万円程度を業務委託費として支払っている。この他にHP改訂が数十万円(昨年のみ)、税理士への会計委託が年間25万円となっている。

NPOは資産を持ちすぎないように指導されており、適度に資産を減らすことは、その主旨に沿っている。また来年度予算の赤字額340万円の内、約2/3が一時的な出費である。またコロナ禍の際はイベント参加費を徴収していなかった(全てオンラインで会場費が発生しなかったため)。その延長線上で、コロナ禍があげたあとも無料を続けていたが、再び参加費を徴収すれば、収支バランスが改善すると思う。それでも不足の場合は、会費の値上げも考慮すべきと考える。

コメント(1)-3 (川村PE会員)

赤字が続くとJSPEが持続できなくなると思うので、会費の値上げについても検討いただきたい。

質問(1)-3 (宮川卓也PE会員)

オンライン活動が増えているようだが、参加者がなかなか増えないという印象がある。オンラインだと人の顔が見えないので、どういう人がいるのかわからない。顔が見える活動をお願いしたい。

回答(1)-3 (西久保会長)

仰る点については試行錯誤しているところである。オンラインは便利であるが、顔が見えない点は仰る通りで、見学会など対面のイベントも設けたが、まだ足りないと思っている。オンラインとオンサイトの比率は現在模索中なので、利便性と横のつながりのバランスを考えながら進めてまいりたい。

質問(1)-4 (森山PE会員)

ボランティア受入評価益が減、理事の数も減とのことだが、理事の負荷という面で新たな取り組みができる状況にあるのか？理事一人当たりの負荷はどうなのか？

回答(1)-4 (西久保会長)

負荷が偏っているのは事実である。業務委託のみならず、本当に活動すべきコアな部分にフォーカスしていけばリソース圧迫の状態から脱することができると思う。現在の活動をなるべくスリム化して、会員価値の向上へリソースを充てていくつもりである。

質問(1)-5 (本多PE会員)

2023年度入会者13名の年齢構成はどうなっているのか？協会の持続性の意味でも若い方が必要と思うが。

回答(1)-5 (浅田理事)

個人情報なので年代は特に見ていない。別途、統計を取ってみる。

質問(1)-6 (宮川卓也PE会員)

新入会員の入会動機は何か？前職の会社では希望者にFE/PEの受験方法を教える傍ら「合格したらJSPEに入会してね」と勧誘していたが、合格しても入会してくれなかった。実際にPE登録に苦労している人も多く、入会する魅力をワンワードで伝えられると良いと思うが何かないか。

回答(1)-6 (西久保会長)

ひとつの意見としては、エンジニアとしての芯が得られるということかと思う。ライセンスを取得することで、小さな範囲でなくグローバルに認められるということ。費用対効果の面で技術士の方が良いという動きもあるようだが、個人的な経験的では、PEによって良いオファをいただいた。

第1号議案の決議

会場：賛成16票、反対0票

Web：賛成12票、反対0票

議決権事前行使：賛成52票、反対1票

議長及び議決権委任者の票は含ず（議長票が可否同数の場合のみ行使されるため）。

合計81票、可決に必要な票数は56票、賛成票数合計80票により可決。

(2) 第2号議案 2024年度活動計画案、及び予算案の件

西久保会長から、下表の通り、2024年度役員の担当部会の変更の説明があった。

部会	担当役員
事務局	西久保 東功 (会長・事務局長) 稲葉 光亮 (副会長)、浅田 剛 (副会長)
企画部会	西久保 東功 (部会長)、竹政 一夫 (副部会長)、 佐藤 寿和、古谷 茂也、柳 英実
広報部会	西久保 東功 (部会長)、 佐藤 寿和 (副部会長) 、柳 英実 (副部会長)
渉外部会	古谷 茂也 (部会長)、西久保 東功 (副部会長)、竹政 一夫 (副部会長)
教育部会	稲葉 光亮 (部会長)、 古谷 茂也 、西久保 東功、浅田 剛、村田 孝一 (副部会長)
会員部会	浅田 剛 (部会長)、佐藤 寿和 (副部会長)、柳 英実 (副部会長)
会計部会	稲葉 光亮 (部会長)、西久保 東功 (副部会長)、浅田 剛
監事	土屋 雅彦、泉山 浩郎

西久保会長から、2024年度活動計画・年間行事及び予算について説明があった。

活動方針は「将来を見据えた会員価値の極大化／Gain our society values toward future generations!」をスローガンに次の3点を骨子とする。

- ① 会員主体の活動増加とベテランPEの活動への協力
- ② PEライセンス自体に対する発信強化
- ③ JSPEの会員価値の向上

その他、以下について説明があった。

- 2024年度活動方針案
- 2024年度各部会の特記活動
- 2024年度活動予算案
- 2024年度年間行事予定案

第2号議案に対する質疑応答

質問(2)-1（鈴木央PE会員）

JPECではPE試験を受けたい方からの質問を受けており、その中に「リファレンスはどうしたらよいのか?」、「州登録はどうすればよいのか?」といったものが多くあるが、前者についてはJSPEへ入会すればリファレンスを得られる安易に回答できない。JSPEでリファレンスを得るための基準のようなものを作っていただくと助かる。また、外国人の方からの問合せもあるが、コンテンツが日本語なので、英語に翻訳可能なこと等を発信していただくなど、門戸を広げていただきたい。

回答(2)-1（西久保会長）

リファレンスについては、NSPEでも人となりをよく知ってからとされている（=1年程度は必要）。したがって、JSPEで何らかの活動をしていただくことが大前提になると思う。半年～1年程度を目安に、活動の表に出ていただければその方の人となりを知ることでもでき、リファレンスを獲得する可能性が上がると思われる。また、外国の方への対応については、HPは一部を除いて既に翻訳対応可能になっている。翻訳ツールは色々あるので、情報共有をしてみたい。

質問(2)-2（関口PE会員）

活動方針案3点について意見を申し上げたい。一点目のベテランPEは、貴重な人的ネットワークや経験があるので、積極的に発信をしていただきたい。二点目の発信強化については、対面や足で稼ぐ必要もあると思われるので宜しくお願いしたい。三点目の会員価値の向上については、PEとしての価値向上について訴求点をしっかりしておかないと、大学生はどんどん後ろ向きになってしまう。JPECとJSPEで協力してみたい。

回答(2)-2（西久保会長）

いずれについても仰る通りと考える。

質問(2)-3（鈴木央PE会員）

質問・提案が二点。一点目はNSPEとの関係について。NSPEの会費が高く、NSPEと連携しているメリットが見えない。NSPEのセミナー（一部でも）をJSPEで視聴可能にするなどの調整はできないか？二点目は会員価値向上について。JSPEのメリットは（技術士会と異なり）所属企業に縛られず自由に発言できること。この環境を利用し、日本企業の品質問題などについて情報発信ができないか？

回答(2)-3 (西久保会長)

一点目は何ができるかNSPEと検討してみる。二点目については即答できない。検討する。

質問(2)-4 (川村PE会員)

NSPEの会費が4万円と高すぎる。NSPEの会費はNSPE本体向けと州のSPE向けの合計額で、JSPE会員は州SPE分の会費は支払う必要がないはず。NSPEの会費を半額にするように、機会があるのであればぜひ交渉いただきたい。

回答(2)-3 (西久保会長)

了解した。今度NSPE会長にお会いする機会があるので、話題のひとつとしたい。

質問(2)-5 (宮川卓也PE会員)

前職では企業内技術士会があつて、PEも所属し、PEの試験情報などを共有していた。ていたりするが、こういった組織があることも技術士が増えている要因のひとつではないか。前職ではPEを取得すると作業服にワッペンを縫い付けるなど企業内でその価値が認められていたが、今はない。こういった企業内技術士会と交流することも良いのではないかと思う。

回答(2)-4 (西久保会長)

アイデアとして活用させていただきたいと思う。

第2号議案の決議

会場：賛成16票、反対0票

Web：賛成13票、反対0票

議決権事前行使：賛成552票、反対1票

議長及び議決権委任者の票は含まず（議長票が可否同数の場合のみ行使されるため）。

合計82票、可決に必要な票数は56票、賛成票数合計81票により可決。

6 議事録署名人の選任に関する事項

上記議決を明確にするため、議事録を作成し、定款第30条の規定により、議長及び議事録署名人（2名以上）が記名捺印する。

以上、この議事録が正確かつ真正であることを証します。

2024年6月8日

議 長 西久保 東功



議事録署名人 浅田 剛



議事録署名人 稲葉 光亮

